

トランプ・カード

トランプ大統領がウクライナの頭越しに、ロシアのプーチン大統領とウクライナ戦争の和平交渉を始めて、ウクライナのゼレンスキー大統領がホワイトハウスの大統領執務室を訪れて、「話し合い」をもちました。途中から大口論になり、そこでトランプ大統領曰く「ウクライナは交渉のカードをもたない」として、アメリカの交渉に従うように説得をしようとした。このアメリカとウクライナの交渉はとりあえず決裂したようです。トランプは軍事援助の凍結などの圧力をかけ始めています。その後の動きも出ていますが、大枠はそのように進んでいます。

トランプのいう「カード」とは何か？

これはどう考えても核兵器を中心とする軍事力というカードとしかとらえられないのです。トランプ大統領はゼレンスキー大統領に「第三次世界大戦をするつもりか」というような話をしていましたが、核兵器をカードに使ったカードゲームは、人類を亡ぼすチキンレースになってしまいます。トランプ大統領は人類を亡ぼす脅威になっているのです。もっとも、トランプはカードゲームのブラフ的手法でロシアに対峙し、ウクライナに妥協を迫り、そこで「和平」を実現するという方針のようです。ブラフ的手法を常套手段化していくと見透かされて無効化するか、それを有効化する先は軍事的衝突のチキンレースになります。一方、その会談でバンス・アメリカ副大統領は、ゼレンスキー大統領に「失礼だ」とか発言しているのですが、そもそも大国が弱い国の頭越し外交をすることが失礼どころか、ファシスト的強圧手法なのです。

ロシアにじり寄るトランプ

そもそも、第一次トランプ政権はロシアのアメリカ大統領選挙への介入によって成立したとされています。小池都知事が「学歴詐称」問題で、エジプト政府に働きかけた疑惑が持たれていて、そういう弱みをにぎらされているひとを権力の座につかせていてはならないという話がされていました。まして、アメリカ大統領という最大の権力の座に、トランプ大統領が再選されたこと自体が脅威なのです。

戦争を仕掛けたのはどちらなのか

そもそも存在自体がフェイクのトランプ大統領はそもそも戦争が起きたのはウクライナに責任があるなどというフェイクのウクライナ批判を繰り返しています。そもそも戦争を仕掛けたのはプーチン・ロシアです。プーチン大統領は、ドンバス地域のロシア人への迫害を口実にしていますが、それならば、なぜ、キーウィまでおさえようとしたのでしょうか？ 明らかにウクライナ全体を支配しようとしたのです。それにそもそもは軍事同盟などが存在すること自体から問題にしなければならないのですが、そもそもウクライナだけでなく、チェチェンやジョージア支配ということや、ロシアのクリミア侵攻やドンバス地域への民兵的送り込み「独立宣言」とかいうごまかしを経て、ロシアに併合する動きの中で、ウクライナのNATO接近が起きていること。そもそも、ロシアの歴史的ウクライナ

抑圧の総体的・相対的歴史もとらえかえさねばなりません。そして現在的に、ウクライナの方から攻撃をしかけたのではなく、ロシアの方から攻撃・侵攻をなしているのです。

そもそもプーチンは何をしようとしているのか

そもそもプーチンは権力掌握願望で、そこに居座り、それを維持することが最大の目的です。さらに、プーチン大統領は過去の「大ロシア帝国」の幻想に囚われているのです。日本の大東亜共栄圏やドイツの第三帝国と同じ、超国家主義のファシズム的志向なのです。ロシアを擁護するようなことを言い出しているひとには、このプーチン政治のファシズム的性格をとらえ損なっているのです。

民主主義の破壊国になりさがったアメリカ

更に、それとシンクロしているのが、ポピュリズムの極のトリックスター的政治に踏み込むトランプ・ファシズム政治です。ナチが国家社会主義労働者党であったように、トランプは労働者層の没落をレイシズム的な排外主義を煽ることによって支持勢力として組み込み、再選を果たしました。ですが、現実にやっているのは、「金持の、金持による、金持のための政治」です。アメリカファーストの国家主義的ナショナリズムを煽りながら、関税戦争を仕掛けているのですが、ブーメランとしてインフレを招き、その打撃を一番受けるのは労働者層なのです。

ファシズム論と反差別論からの問題把握の必要性

このウクライナ戦争の問題をとらえ損なっているのは、プーチン・ファシズムやトランプ・ファシズムのフェイクに惑わされていることもあるのですが、力関係や暴力の行使というところでのファシズムの強圧的押し付けということをとらえ損なっているからです。ファシズムの力の論理がとらえられない、差別的強圧というファシズムの性格をとらえられないところから来ているのです。そして、戦後民主主義が人権論的論理の中で、個別差別はそれなりに個別的にとらえられても、差別の総体的・相対的性格がとらえられないところで、差別の構造という処に下降しつつ、そこから個別差別に上向的に演繹していくという作業がなされないので、差別ということが押さえられないし、またそこからファシズム論ともリンクしていく作業ができなくなっているのです。今こそ、差別ということをキーワードに問題を読み解いていく作業が必要です。まさに、トランプ大統領の差別排外主義的性格がまさにファシズム的手法であることもそこから読み解いていけます。まさに、トランプ大統領はファシズムの反対語である「民主主義」の破壊者なのです。

ウクライナはカードがないのか

独裁やファシズムの反対語は「民主主義」です。トランプ大統領は、「ウクライナにはカードがない」と言っていますが、ウクライナのカードは「民主主義」で、プーチン＝トランプファシズム連携と対抗できるのは、「民主主義」を押し出す諸国と、それをさらに超える「ファシズムの核心としてある国家主義」批判の民衆の「民主主義的国際連帯」です。国家主義を止揚する反ファシズム統一戦線的民衆の国家の枠組みを超えた連帯の取り組みです。

ファシスト・プーチン・トランプの「カード」ゲームのやり方や、そのカード自体もみえみえになってきました。「軍事費をふやさないと軍事同盟をやめるぞ」とか「軍隊を引き上げる」と「脅し」をかけてくれば、「どうぞ」と言えばいいだけです。日本はアメリカの属国から抜け出して、「憲法9条を世界の憲章に」と標語をかかげて平和外交に踏み出し、核兵器のない、軍隊を限りなく縮小していく世界態勢へ踏み込んでいくことです。

何をなすべきか

トランプ第一次政権が出来たとき、孤立化しそうなのを救ったのは安倍元首相でした。それを「安倍元首相の外交手腕」とかとんでもないことを言っているひとがいるのですが、とんでもないことです。今日、ヨーロッパの右傾化に懸念が出されていますが、その走りは日本の安倍極右政権だったのです。そもそも、トランプ大統領の孤立化を救い、世界への抑圧政治を導いたのが安倍元首相の最大の悪行のひとつなのです。もはや、安倍元首相はいません。ファシストトランプ・アメリカの孤立化包囲網を作っていくことです。「関税をかけるぞ、アップするぞ」という脅しには、不買運動で応えればいいのです。

できることから、いろいろ考えて実行していくことです。

わたしは、トランプ政権の「金持の、金持による、金持のための政治」の象徴、イーロンマスクの「X」を止めました。 (み)

(「反差別原論」への断章」(98) としても)